



在京宮崎県人会を報

ふやせ

発行
在京宮崎県人会 広報委員会
TEL: 03-3222-1446
東京都千代田区大塚南4-2-2
宮崎県連合会2号

第21号 2009年4月

発行

平成二十年度 在京宮崎県人会総会・懇親会
企画から実行まで 女性のパワーに期待!

在京宮崎県人会会長 日 高 啓

新緑の季節を迎えました。皆様にはお元気でお越しの事とお慶び申し上げます。また日頃から県人会にご協力戴き心から御礼申し上げます。

さてアメリカの金融危機に端を発した世界同時不況は、日本にも深刻な影響を及ぼし政治も経済も混乱しています。その中でわがふるさと宮崎は東国原知事の超人的なご活躍により依然元気一杯です。

ただ東国原県政も三年目に入り内外共に正念場を迎えています。

県外応援団としてあらゆる面でふるさとを応援して行き度いと思います。

さて今年の「在京宮崎県人会・総会」は十月二十四日土曜日、十二時開会（十一時より受付）、場所は



アルカディア市ヶ谷ときまりました。会員並びにゆかりの皆様方多数のご参加をお待ちして居ります。

今年は総会の企画・運営のすべてを女性の方々をお願いいたしました。実行委員長には副会長の寺原ヨシ子さん、実行委員には常任幹事の田中美智子、宮川輝子、宮崎正子、幹事の春山ミツ子、南久美子の皆さん、その他八名の計十四名です。先日実行委員会に出席してきましたが、談論風発、いい感じでした。皆さんの活躍を期待しています。

在京宮崎県人会の近況ですが、県人会の前身とも云われる「一金会」は引き続き有力な講師による多彩な講演会を第一金曜日に行い活気を呈しています。

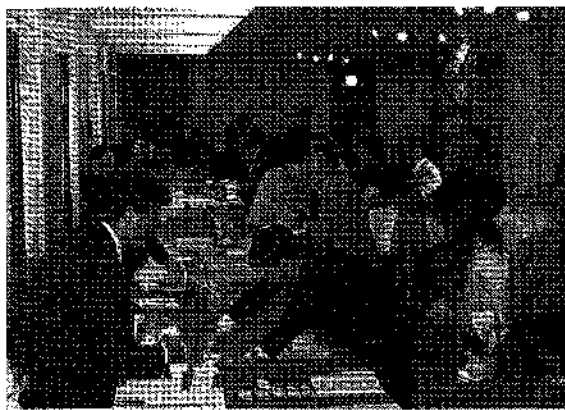
次に「活性化委員会」は県人会を盛り上げようと発足した会ですが、委員長の永崎さんのもとに活発な運動を続けています。三月二十八日には女性方を中心に「桜と宮崎料理を楽しむ会」が開催されました。

又、郷土の誇る歌人「若山牧水の没後八〇周年記念東京展」が一月二十七日から二月十四日駒場の日本近代文学館で開催されました。県人会としても全面的に支援しましたが、県人会の皆様多数ご来場有難うございました。私も参りましたが、内容の充実した素晴らしい展覧会でした。主催の若山牧水記念文学館（日向市）那須事務局長さんからお礼の手紙を戴きました。

最後に、県人会の今後についてですが、現在の会員数は約五〇〇名。東京並びに近郊在住の宮崎県人は数万人とも云われています。

同窓会、市町村人会との交流を深めると同時に、若い人及び女性の入会を積極的に進めたいと考えています。

会員皆様のご健勝を心からお祈り致します。



*** はなやぐ 女性の参加 家族と 同郷人と ***



平成二十一年度 在京宮崎県人会総会・懇親会
女性スタッフが

企画から実行まで

初めての女性スタッフによる総会・懇親会が、東国原知事をお迎えして行われる。寺原ヨシ子実行委員長のもと着々と準備が進んでおり、大いに期待が持たれている。

委員長 寺原ヨシ子(宮崎)
副委員長 田中美智子(小林)
実行委員

宮崎正子(宮崎) 宮川輝子(目黒) 春山ミツ子(郡城)
南久美子(宮崎) 倉片厚子(郡城) 花地芽衣子(郡城)
杉田伸枝(小林) 脇岡イセ(小林) 増田ハツ子(延岡)
黒木栄子(宮崎) 加藤敏子(延岡) 内野公子(東京)

日時 二十一年十月二十四日(土)

開会 十二時閉会(十一時から受付)

閉会 十四時三十分

場所 II アルカディア市ヶ谷(私学会館)富士の間

交通 JR・地下鉄有楽町線・南北線・新宿線 市ヶ谷駅

会費 女性七〇〇円 男性八〇〇円

※円卓・椅子かけ／福引／お土産(全員)

《お問合せ》

在京宮崎県人会事務局(月・水・金 十時～十六時)

電話・FAX 03(3222)1448



お楽しみ抽選会。東国原知事から!!大当たり!!の目録を受け取り“ありがとう”と席へ戻る足取りかろやか。満面の笑みに“よかったネ”の拍手が響いた。寺原ヨシ子副会長の指揮にあわせて、「ふるさと」を合唱。再会を期して万歳三唱! 20年度実行委員長:吉門信夫さん ご苦労様でした。



おたのしみ 抽選会とお土産

▼出席者全員にお土産、そして抽選券。受付で渡す「総会・懇親会式次第」についているのが「お楽しみ抽選番号」。

その景品は、県・知事・市町村・各企業からご提供いただいたもの。

▼宮崎牛1kg/東京も宮崎航空券/シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート宿泊券/宮崎観光ホテル宿泊ペア券/青島バームビーチホテル宿泊ペア券/南郷プリンスホテル宿泊券+ゴルフプレー券/(東京)フレンチレストラン食事券/高島屋商品券ほか。

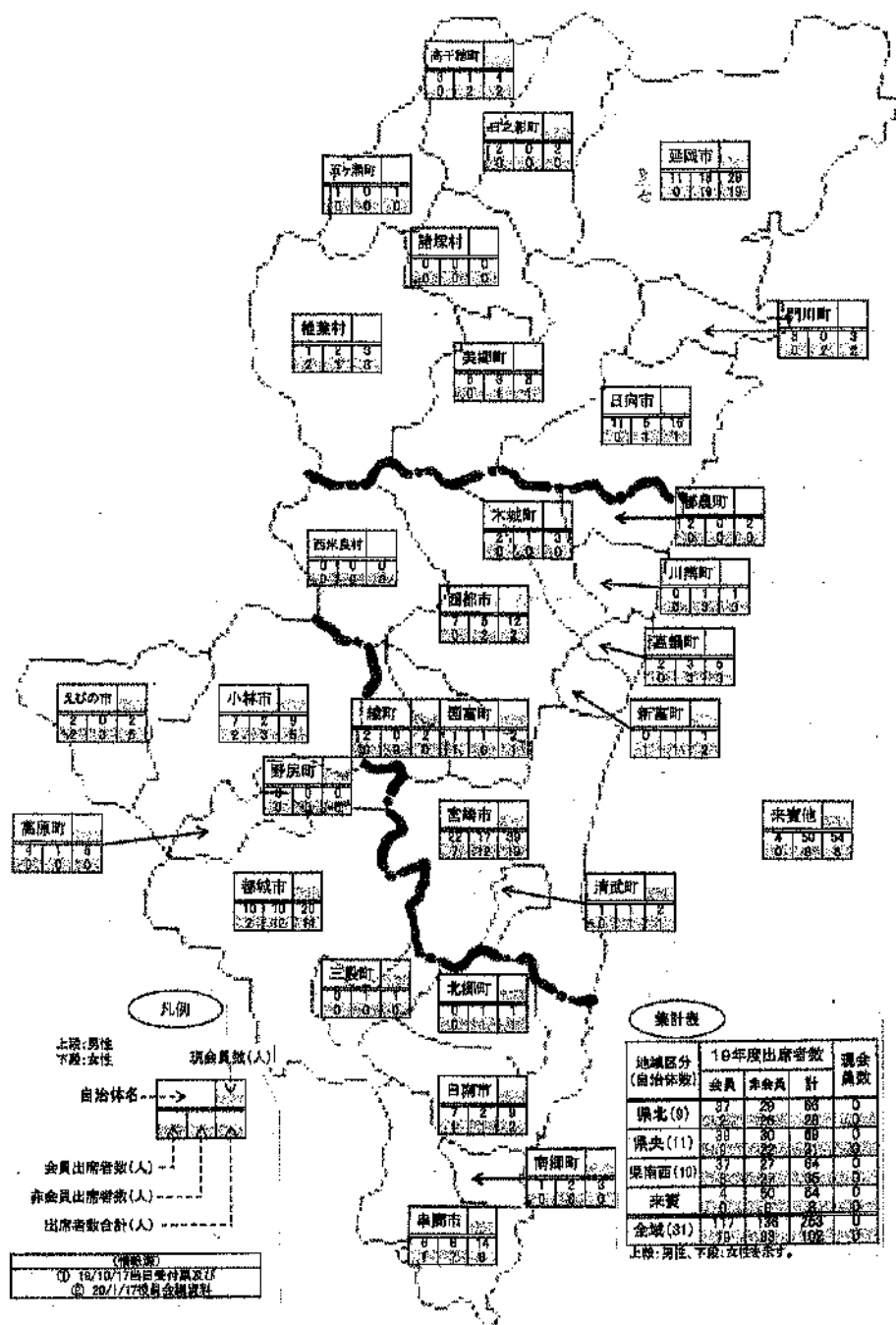
抽選に漏れても、焼酎を初め、里の味・香り詰合せ:等など。出席者全員にお土産としてお持ち帰り戴いた。

(全員にお持ち帰りいただくお土産袋)

■平成二十年度総会懇親会《地域別》出席者数

地域区分	現会員数	出席者	会員	非会員
高千穂町	男 5 女 4	5 1	3 1	2 0
日之影町	男 3 女 0	3 0	2 0	1 0
延岡市	男 48 女 9	33 26	11 2	22 24
五ヶ瀬町	男 3 女 0	0 0	0 0	0 0
諸塚村	男 0 女 0	0 0	0 0	0 0
椎葉村	男 1 女 2	1 2	1 2	0 0
美郷町	男 13 女 1	10 6	3 1	7 5
門川町	男 6 女 0	2 3	1 0	1 3
日向市	男 24 女 3	16 8	12 2	3 6
県北計	男 103 女 13	69 46	33 8	36 28
宋城町	男 6 女 0	2 0	2 0	0 0
都農町	男 12 女 0	1 0	1 0	0 0
川南町	男 2 女 2	3 3	0 0	3 1
西米良村	男 1 女 0	0 0	0 0	0 0
西郷市	男 17 女 0	8 5	0 0	9 5
高鍋町	男 17 女 2	6 1	2 0	3 1
新富町	男 3 女 1	1 0	1 0	0 0
国富町	男 6 女 1	1 0	1 0	0 0
綾町	男 5 女 0	2 0	1 0	1 0
宮崎市	男 32 女 26	38 29	23 6	13 24
清武町	男 8 女 0	3 0	2 0	0 0
県央計	男 189 女 32	63 34	38 5	28 29
えびの市	男 13 女 5	2 3	2 1	0 2
小林市	男 20 女 8	6 6	4 1	2 4
野尻町	男 1 女 0	1 0	0 0	1 0
高原町	男 6 女 0	2 0	2 0	0 0
都城市	男 43 女 6	14 10	9 2	5 8
三股町	男 1 女 0	0 0	0 0	0 0
北郷町	男 1 女 1	0 0	0 0	0 0
日向市	男 26 女 3	3 2	2 1	3 1
南郷町	男 7 女 0	6 0	3 0	3 0
串間市	男 11 女 2	7 3	4 1	3 2
県南西計	男 129 女 20	43 23	26 9	17 17

■在京宮崎県人会の存在を知らない方もあるようです。古里を同じくする者同志の集り。とつき、縁のある方をお誘い下さい。



集計表

地域区分 (自治体数)	19年度出席者数			現在 員数
	会員	非会員	計	
県北(8)	37	29	66	0
県央(11)	30	30	60	0
県南西(10)	37	27	64	0
未定	2	50	52	0
全県(31)	104	136	240	0

上段:男性、下段:女性を示す。

《ふるさと寄り合い会》はフラット

県人会常任幹事・広報委員 田原大三

「県人会総会懇親会」。いかにも硬くイカツイ呼名。頭の高い年寄りの集まりなのだろう」と決め込み、自分とは縁のない他人の会合のような思いさえする。事実、参加するまでの自分もそうだった。

ところが、参加してみれば分る。古里を同じくする学校のクラス会・同窓会、市・町・村人会を基盤とした宮崎県に縁のある人の「寄り合い会」なんだ、と。

そこでは「日向べん」が飛び交い、その顔立ちにその動作にさえも古里をかもし出す何かが漂っていて、心やすらぐ雰囲気を実感する。

数年ぶりに、上京後はじめてとか、顔見知りの同窓会仲間、同地区の「〇〇さん」にも出会う。

よしんば、知人に会えないからと云ってクサルこととはない。会場のテーブル分けも地域ごとに県南西・県央・県北と配置してある。隣の席の人に焼酎を酒を注いだらいい(ワーロン茶、ジュース、ワインもある)。

それが始まり！ 礼儀さえわきまえていれば、参加者の年齢差や地位の上下などはゆるやか、人間関係もフラットに思えてくるからありがたい。

これこそが、古里を同じくする縁で享受の場＝県人会であり、会の本意を「ご理解いただけるひと時と思う。

諸先輩たちの遺してくれた在京宮崎県人会は、創立から一〇〇年余の時を経た。この歳月の意味するものは大きい。古酒袋に新酒も注ぎ込みながら次代への試みも急がれている。日高啓会長の下に六十数名の役員構成。それぞれが各地域から、市・町・村人会、同窓会などの代表が係っている。「自分達の会合」意識のもとに、ご参加の上、意見を戴きたい。(美郷町西郷区)

在京宮崎県人会役員名

(平成二十一年四月)



【会長】 日高 啓 宮崎市

【副会長】 山口正史 宮崎市

【幹事長】 松本國利 日向市

【常任幹事】



安藤信一 西都市

古殿敬三 小林市

田原大三 美郷町

永崎秀一郎 えびの市

宮川輝子 日向市

山下尚生 日向市

吉田 正 串間市

甲斐正光 高千穂町

【幹事】

青木英明 日向市

岩井 暁 延岡市

金丸孝徳 都農町

興相 直 高千穂町

鶴 優治 日向市

野田典男 高岡町

泥谷伸彦 木城町

三谷春義 椎葉村

岩崎 理 延岡市

黒木重信 新宮町

山本 剛 清武町

長倉祐作 都城

寺原ヨシ子 宮崎市

黒木 康 日向市

武田照雄 国富町

中島龍男 都城

廣島昭夫 宮崎市

村田浩平 小林市

吉岡輝夫 木城町

城野豊隆 延岡市

泉田 弘 美郷町

小田 巖 えびの市

小島基弘 高岡町

田辺マツ子 えびの市

土工和夫 都農町

岩山ミツ子 都城

南久美子 宮崎市

和田昱二 日向市

岡本 哲 高岡町

内野憲一郎 都城

渡辺典隆 五ヶ瀬町

関本泰三 宮崎市

【会計監事】 盛武建二 延岡市

黒木重信 新宮町

佐藤 保 高千穂

渡辺典隆 五ヶ瀬町

関本泰三 宮崎市

【会計監事】 盛武建二 延岡市

『一金會五十年のあゆみ』／昭和五十三年「一金會」発行から拾う
東京「日向文化の会」 黒木勇吉(五十二年・八十一歳)

東京に「日向文化の会」が出来たのは紀元二千六百年(昭和十五年)の秋である。當時有楽町の日本劇場に日劇ダンシングチームがあり、そのマネージャーが少壮県人の児玉英水であった。二千六百年祭の記念演芸として、歌舞劇「日向」が、日本劇場に上演された。これは序幕が「天の岩戸」に初まり、終幕まで十場あり、すべて、「日向」によって「日本」そのものを象徴する素晴らしいレヴューでその中には、「ヒエ掲飾」、「カリボシ切り歌」、の幕もあったのである。この日劇ダンシングチームの『日向』において歌われ、踊られたのが、「ヒエ掲飾」と「カリボシ切り歌」が、中央の舞台に進出したはじまりである。

そうしたこともあって、これを機縁として、東京に「日向文化の会」が出来たのであって、世話役は主として図書研究社(出版・現在の尾鈴山書房)をやつていた少壮の守部一美君や神戸雄一君であった。メンバーは、文芸、美術、新聞、雑誌などすべての「文化」関係にある在京の県人で、当年の先輩は、日本画の益田玉城、新聞界の堤為章、洋画の鎌利彦(健在)などがあり、若年には異色の女流作家大迫倫子(東京都港湾局長大迫元繁の令嬢)、中村地平(小説)、神戸雄一(詩)、山中卓郎(詩)、黒木清次(詩・現在宮崎日々社長)などがあつた。

【黒木勇吉】▽宮崎県美々津に生まる。▽大正十一年早大専政経科卒。戦時新聞(旧)に入社。統一部長、論説委員。昭和十七年報知、読売合併、読売に転社。論説委員。昭和二十六年まで在社。▽主なる著書「小村寿太郎」(愛郷の歌人・若山牧水)「秋月左都夫」その生涯と文豪「歌集・生きの」(刺繍) (編・峰)

「一金會」

『一金會五十年のあゆみ』黒木勇吉氏の文から拾う

▼学生時代から、私(黒木)は県人会には必ず出席した。県人会は年二回しかないもので、「月一回在京県人の有志で集まろう」というのが、一金会のはじまりであつたようだ。そして、一金会をひと廻り小さくしたのが「あぐら会」であつたが、この始まりは、長く外交官生活をされた秋月左都夫先生(読売新聞社長・オーストラリア大使・県人会長)から、いろいろの話を聞かうというのが主旨であつた。▼一金会が、最も盛大であつたのは、田中長茂さんが、農林省の局長時代であつたように記憶する。(略) ▼在京県人で、一番充実しておるのは、軍人と医者だ。——という時代があつた。

陸軍 上原勇作(元帥)、井戸川辰三(中佐)、萱島蒿(中將)、菅波一郎(中將・香港司令官)、菊地武夫(男爵・中將)、黒木親慶(少佐)、海軍 財部彪(大將・海軍大臣)、後藤章(中將)

小沢治三郎(中將)、医者 菊池循一、森繁(小石川)、伊藤保士(淀橋)、湯地貞醇(深川)、山本八治(日本橋)佐藤□□(吉原病院長)、梅村六郎(横浜・大雄山病院院長)

実業界 大島雅太郎(三井・理事)、三好重道(三菱・理事)、堤長述(三菱・理事・成蹊学園理事)、金融界 川口彦治、坪俊次郎、保険界 鈴木太郎、外林弥一郎(維新倉庫)百溪

緑郎太(シーメンス、シニケルト)、多賀都善男(三菱製紙)、秋月捷五(三菱商事)、教育 伊知地純正(早大商学部)、村上俊亮(教育大学学長)、報道 堤為章(毎日新聞社会部長、吉岡文六(毎日新聞編集局長、河野健次(朝日新聞ワシントン特派員)

政界 小村寿太郎(外交官)、藤田仁太郎(英大使館、川越茂(駐米大使)、堀義貴(メキシコ大使、二見甚郷(タイ公使)、官界 鈴木定直(警保局長、湯地幸平(警保局長、持永義夫(社会局長・北海道長官) 他。

(編・峰)

一金会の現況

一金会世話人 安藤 信一

昨年、一金会創立八十周年を迎えました。

一金会の誕生は昭和三年九月、竹下豊次氏（参議院議員・串間市出身）が台湾総督府事務官に任命され、十月に台湾赴任に際して京橋の第一生命保険会社が集まり送別会を開催しました。その時参加した諸氏が中心になって定期的に（月の第一金曜日）に集まるようになったのが発端です。当初は有志の親睦融和を目的とした一種の社交クラブでしたが、年輪を重ねるうちに県政推進の中央における有力な拠点ともなり、時には県の重要懸案事項を側面的に促進するための助言者の役割を果たしてきました。戦前戦後を通じて先輩諸氏が受継ぎ、平成になってからは長倉祐作氏、安藤信一が運営に当たりました。昨年には今までの講演をまとめた八十頁の「一金会のあゆみ」総集版を編集発行いたしました。今年の新年一金会は二月六日、朝「財界」代表取締役社長兼主幹 村田博文先生（串間市出身）に「09「試練の時」を生き抜くリーダーの発想」を演題にお話をしていただきました。時機を得たテーマだけにいつもより多く五十名以上の参加がありました。何か元気をいただいたと好評でした。

現在、一金会は三ヶ月に一回、年間四回開催しております。このところ新しい人達の参加が増えており、初めて来ていただいたひとには県人会への入会をすゝめております。飲食を含めたパーティー会費三〇〇〇円は全く値上げしておりません。これは毎回霧島酒造から寄贈いただき、又倘若洲の廣島相談役から中華酒の数々をご提供いただいたお陰でこの料金を維持している訳です。改めて感謝申し上げます。東京にある県

人会有志の月例会が八十年も続いていると言うことは珍しいことではありますが、それは時代を超え、ふるさとを思う愛郷心がこの会の基本にあるからであると思います。

なお、五月一金会は五月十五日（金）演題「本格焼酎について」霧島酒造東京支店長 堀内憲一郎さんの講師で開催します。霧島酒造は現在全国二位の販売実績です。

（在京宮崎県人会常任幹事／西都市出身）

桜と宮崎料理を楽しむ会

県人会活性化委員長 永崎秀一郎



活性化委員会主催、県人会で初めての企画であるお花見会を、三月二十八日（土）開催した。場所は皇居千鳥が淵。初めての故、何名参加者があるか不安であったが、一六名の出席者があった。なかでも若い人達（仮称青年部）が八名の参加で花を添え、心強く思った。

気象予報では二八日が満開ということで、日程としてびったりだと思っていたが、開花宣言後の冷え込みで二、三分咲き出あった。ただ国立劇場庭園の桜は満開で、花見気分を味わうことが出来た。

お花見会を終え、郷土料理南州酒場「てげてげ」で

懇親会を開催した。

日高会長をはじめ、県人会を代表する美女四名、年輩男性、若者達という顔合せであったが、和気あいあいの明るい雰囲気であった。会長挨拶、自己紹介に耳を傾け、焼酎の乾杯で盛り上がり、笑顔いっぱい一氣に若返った。

店主が都城出身ということで、宮崎料理がテーブルに並べられ、大いに味わうことが出来た。飲んで食べてしゃべって、時間の経つのも忘れる程の懇親会となった。

青年部の皆さん全員が、県人会会員として登録し、今年の総会にも出席されるということで、意義あるお花見会となった。

主催者側として、満足感を覚え、又、来年も企画したいと思っている。（在京宮崎県人会常任幹事／えびの市出身）

活性化委員会 二十一年度事業計画案

- ▼七月四日 映画会「わが青春に悔いなし」
ところ 県東京ビル *参加人員目標 三〇名
- ▼五月上旬 五月場所 第二回相模原見学
ところ 佐渡嶺部屋 *参加人員目標 一〇〜二〇名
- ▼六月上旬 東京湾クルーズ *参加人員目標 三〇名
- ▼八月 読売巨人軍応援 *参加人員目標 三〇名
- ▼九月上旬 日帰りバス旅行 *希望者
- ▼一〇月 日向こまちの会 *参加人員目標 三〇名
- ▼十二月 高校バスケット、サッカー 全国大会応援

※詳しくは、県人会事務局までお問合せ下さい。

電話 03(3222)1448

宮崎県民性

おとなしく消極的。あきらめが早く、なりゆきまかせ。

◆台風で身につけたあきらめのよさ

(前略) 台風の襲来が宮崎県人の気風に強く影響していることを指摘する人もいる。毎年のように襲ってくる大小の台風によって、それまで営々と育ててきた農作物がひと晩でやられてしまうことを経験しているうちに、宮崎県人はいつしか、それに対処することを放棄するようになる。むしろ、ほうっておいてもしばらくすると、自然界は再び肥沃な大地を恵んでくれるため、「自然の試練は、試練とならず、諦めと忍従、怠惰と投げやりに流れる。これにつづく自然の恵む復原は精励を必ずしも必要としないことを知る」、したたかな生き方が身についたというのだ。(略)

つまりは、台風慣れっこになってしまっているということがある、それだけでなく、あまりに温暖な気候に恵まれている——年間快晴日数、日照時間、平均気温はいずれも全国第三位——宮崎県人は、向上心が低いというか、進取の気風に乏しい。また、温和でお人好しのひとが目立つ。

◆「なるようにしかならない」が信条

延岡に「よだき」と言う言葉があり、万事におっくうがることを意味するそうだ。これは、ものごとに対処するに際し、「みずから行動を起こす・仕掛ける」のではなく、「なるようにしかならない」という心がまえで臨むことをいい、宮崎県人の気質を実に的確に表現しているようである。おとなしくて積極性に欠ける人のおおいのもの、そうした気質のあらわれととらえることができる。(後略)

(編 田代)

こんな話 あんな話

全国で宮崎県は



▼住宅用太陽光発電システム普及率 宮崎 三位

佐賀県 3・25% 熊本県 3・08% 宮崎県 2・06% 最下位は青森県 0・25%で西高東低。西日本の普及率が高いのは日射量が多いためだが、地域差の背景には電力会社が家庭で使わなかった太陽光電力を買い取る仕組みも関係しているようだ。買い取り価格は通常売っている電力と同額(1kw時当たり約二十三円)のところが多いが、九州電力はそれより高い価格(同二十五円)で買い取る。
(経済産業省／日経新聞 21・01)

▼人口十万人あたりの看護職員数 宮崎 三位

全国で働く現役の看護職員(保健師、助産婦、看護師、准看護師)は約百万人。九州、四国が多く、関東、中部は少なく、全体的には西高東低。日本看護協会担当者は「上位県は平均より病床数が多く准看護師の比率が高い。少ない県は都市部の人口増に看護職の人員配置が追いついていない表れ」。(厚生労働省／朝日新聞 22・05)

▼スギ材の生産量 宮崎 一位

花粉症の人を悩ますスギ花粉。日本を花粉症列島にしたのは戦後、国が雑木林を伐採し、生育の早いスギを大量に植えた拡大造林のツケといわれる。現在、スギ林の生産量は宮崎県がトップ、二位大分県、三位秋田県、四位熊本県、五位宮城県、六位岩手県、七位福島県で、九州と東北地方が主な生産地。

(農林水産省／東京新聞 21・02)

▼国宝・重要文化財件数十五件 宮崎 最下位

国宝・重要文化財が最も多いのは、国立博物館や、私立美術館の多い東京都。一方、群馬、徳島、佐賀、宮崎の四県には国宝が無い。東北や九州に指定文化財が少ない理由について、文化庁では「地域文化の評価が定まっていないという事もあるのでは」。(文化庁／朝日新聞 20・09)

▼マンゴーの国内産地が北上 北海道・千葉・静岡でも。

以前は沖縄、宮崎、鹿児島、三県が主力産地だったが、最近では千葉、静岡などでも生産。今夏(20年)には北海道産が東京都内の高級果物店に並んだ。国産マンゴーはハウス栽培が一般的で、冬に開花し五〜九月に出荷する。冬場にハウス内を10度以上に保つ必要があり、九州以北で栽培するのは燃料費もかさみ難しいとされてきた。背景にあるのが南国フルーツ人気を受けた販売価格の上昇だ。五年間で約30%上がり、燃料費をかけても利益が見込めるようになってきた。原油高には栽培法の省エネ化で対応する。二〇〇八年春に国内初のマンゴーの新品種を登録した近畿大学付属農場(和歌山県)は開花期を遅らせるなどして燃料使用料を五分の一に出来る栽培法を開発した。神内フアムニ(北海道)は「風力発電や温泉熱を活用したい」という。(日本経済新聞 22・08「なるほどビジネスMap」)

▼落花生の収穫量 宮崎 六位

南京豆、ピーナツとも呼ぶが、「花が落ちて、実が生まれる」が名の由来とか。成りたちが読める「漢字の妙」に合点がいく。

- ①千葉 15400トン ②茨城 2460トン
③神奈川 435トン ④鹿児島 277トン ⑤栃木 273トン
⑥宮崎 148トン (〇六年農林水産所／朝日新聞 21・04・02)

▼ふるさと選手 “ガンバレ”!

WBCで大活躍した青木宣親(日向高校・ヤクルト)選手をはじめ、郷土出身選手の活躍が期待されるプロ野球が始まった。支配下登録七十名以内、コーチ(二軍監督含む)は原則として、連盟登録の一〇人が掲載されたスポーツ欄から郷土出身選手を拾った。

【西武】

中崎雄太 (投手) 日南学園

赤田将吾 (外野手) 日南学園

【ロッテ】

井上祐二 (コーチ) 都城

川崎雄介 (投手) 宮崎南

【ソフトバンク】

有馬 翔 (投手) 日南学園

神内 靖 (投手) 延岡学園

藤岡好明 (投手) 宮崎日大

大田原隆太 (投手) 都城工

井手正太郎 (外野手) 日南学園

【オリックス】

宮本大輔 (投手) 延岡学園

【日本ハム】

福良淳一 (コーチ) 延岡工

【楽天】

草野大輔 (内野手) 延岡学園

【阪神】

蕭 一傑 (投手) 日南学園

【巨人】

木村拓也 (内野手) 宮崎南

【中日】

登録選手なし

【広島】

登録選手なし

【ヤクルト】

赤川克紀 (投手) 宮崎南

青木宣親 (外野手) 日向

寺原隼人 (投手) 日南学園

下園辰哉 (外野手) 宮崎日大



【編集後記】

珍しい事ではないが、先日、「在京宮崎県人会」の存在を知らないという若者(都城出身)に出会った。並木通りにある店のママさん(延岡出身)に紹介されたのだが、その店への案内者は延岡出身のX氏である。

早速、X氏(県人会常任幹事)と二人して県人会へ誘ったのはいうまでもない。宮崎の者じゃが、〃の話しかけに、多くの言葉と時は要らなかった。青年は名刺を出し、「知らなかった。是非参加したい!!」と、今年の総会・懇親会での再会を誓ってくれた。

出身地が同じというだけで話しは弾み、心は和むから楽しい。それだけではない。思いもよらぬ事で、どこかで、郷人との「縁」で、繋がっていることに気付かされることもある。

こんな時、「同郷」という意識の不思議さ、ありがたさを改めて実感する。

百余年もの以前から、先人達は同郷者の寄り合いをして来た。昭和五十三年、一金会から発行された「一金會五十年のあゆみ」にその思いを読み取る。

そのひとつ、昭和四十年頃になると一金會・県人会幹部を中心に、「宮崎県人(民)会館」設立試案をまとめ県議会への提案検討がなされたが、全会員の熱意が結集できず未熟のまま終わったとある。

会館設立基本要項「目的」には、

本会館は在京宮崎県人と在郷宮崎県民相互の親睦連絡機関たらしむるのみならず在京県人の教養慰安に供用し、以て宮崎県の文化、経済、産業の進行発展に寄与するを目的とす。

とあり、建物(現・県ビル所在地)の青写真には、地下二階から地上九階建てビルの各階ごとに具体的な配分が示されている。中でも、五百人収容の大ホール、

食堂・喫茶室、大小会議室貸室、大小宴会場、図書室、理髪・美容室・女性特別室・宿泊施設…ほか。

先人達がいかに熱心に、在京宮崎県人会と在郷宮崎県民との「親睦」を考え、連絡拠点作りを熱望したか、その思いには胸を打たれる。と、同時に、「在京宮崎県人会」の意義を、そして在るべき姿を、改めて考えさせられる。

時はかわっても、ふるさとへの思いを胸に、それぞれの立場でみんな頑張っている。諸先人達の構築してきた百余年の歳月に学び、在京宮崎県人会を未来へと発展させて行かなければならない。「一金會五十年のあゆみ」をひいた意はここにある。

今年の総会・懇親会は女性実行委員がすべてを仕切る。

前例のない試みに大きな期待と成功が待たれる。女性参加者も多く見られるようになってきた県人会の変化は喜ばしいことだ。会報紙面も、応援を籠めて女性参加の賑わいを組んだ。

決して他人事ではない、自分達の県人会。その存在を知らない多くの日向人がいる。

意義ある楽しい寄り合いにするために、会員各位の呼びかけが力となり、会発展へとつながる。(峰)

在京宮崎県人会

入会希望者を紹介下さい

電話/FAX 兼用

03(32222)1448

在京宮崎県人会事務局(月・水・金 十時~十六時)
東京都千代田区九段南四一八一 宮崎県東京ビル